

# 教育

社団法人 現代教育研究協会

会 報

47

題字 樹本頼兼氏

発行所 社団法人 現代教育研究協会  
京都市伏見区不明門通五条下ル  
インターナショナルアカデミー内  
〒600-8171 TEL:075-371-5081  
FAX:075-371-6005  
印刷所 株式会社 洛陽

## 現代教育研究協会を学びの場 つながりの場に

会長 梶村 健 二

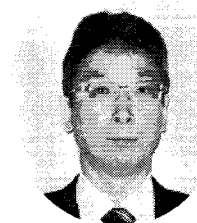
### 会員の皆様に

Aさん、お元気ですか。しばらくお目にかかっていませんが、いかがお過ごしでしょうか。現職時代には学校現場で子どもたちのことを常に考えた教育実践を推進されていたお姿を思い起こしています。様々な困難な教育課題がありました。様々な困難な教育課題がありました。様々な困難な教育課題がありました。

いでしょうか。一度、そうした思いを「現代教育」の場で、会員とともに話し合ってみませんか。また、今の教育現場の話を聞きたい。ご理解、ご支援いただければと思っています。

Bさん、いつも「現代教育」の活動に積極的にご参加いただきありがとうございます。家庭で、地域で、子どもたちの教育について普段から疑問に思われたことや全体的な観点での子どもの実態などについての話をお聞きたい。より教育についての関心を深めていただいていることと思います。さらには、自らの生涯学習の実践の一環として、この「現代教育」の講演や実技、さらには管外での一日研修や宿泊研修を楽しみにしていただいているのではないのでしょうか。

Cさん、日ごろはお忙しいので中々「現代教育」の行事にご参加



かりと受け継がれて、京都の教育として花開いているのではな

た。多くはできていない。講演会の概要をお読みいただ。ご自身の学習活動の推進に少しでもヒントになるようなものを見つけていただいているのではないのでしょうか。私たちの生活の中には様々な学びの場と機会があります。ご自身にあった形でそれを工夫して実践につなげていただければと思います。その一助にこの「現代教育」がなれば幸いです。

Dさん、「現代教育」の活動には一泊の管外研修を楽しみに参加していただいていたね。残念ながら、昨年は三月に予定していた宿泊研修は直前に起こった東日本大震災の甚大な被害を思い、急遽中止にしました。今年は、昨年とはほぼ同様の旅程を計画し実施しました。多くの会員の皆さんにご

参加いただき楽しい思い出となりました。

### 現代教育研究協会の役割

昨年の三月十一日の東日本大震災、津波、原発事故から一年がたちました。私たちは自然は自然の流儀でやってくるということを改めて認識し直すとともに、人間としての生きざまを今、この時に振り返ることになりました。人の絆、人とのつながり、日常生活の大事さを今一度見つめなおすその機会の一つに「現代教育」もなっている。学校教育は学校だけで効果的に機能するものではなく、保護者や地域の方々、企業や大学関係者も含めたこの京都に住まう皆さんの力が一つになってこそ実を結ぶものであります。そういう意味で、教育に少しでもかかわりのあった方々や、関心をお持ちの方々の集まりであります。この現代教育研究協会においても学校教育の現状や課題を地道に学ぶ機会を設け、学校教育に積極的に関心を持ち続けたい。自らの興味や関心に応じた課題を見つけての学習や社会的課題に向けた学習を進める機会として「現代教育」をご活用いただければと考えています。

### 新たな知の世界に

昨年は、五月に前京都府教育相談総合センター所長、京都教育大学教職支援センター教授の桶谷守先生から子どもたちの現状に関するこ

講演、七月には広島女学院大学学長の長尾ひろみ先生から裁判での通訳の体験を通しての日本に住む外国人を取り巻く状況についてのご講演、八月には祇園お茶屋「吉うた」の女将の高安美三子さんのお話と舞妓さんとの楽しい交流、一月には龍谷大学教授の浅田正博先生から親鸞聖人と千日回峰行にかかわる厳しい修行のお話をお聞きしました。また、十一月には一休寺、新薬師寺そして長岳寺の拝観と紅葉見物という一日研修を実施しました。特に長岳寺では、狩野山楽筆と伝えられている大地獄絵が開帳されていてそれを拝観しながら、住職のお話をお聞きすることもできました。いずれも多くの会員の皆様にご参加いただき、有意義な時間を持つことができました。何事にも好奇心を強くもち継続して学んでいくことが大事であります。皆様にとつて、新たな知の世界へと広がっていくきっかけになったのではないのでしょうか。本会は会員それぞれの思いでお集まりいただいています。今年度も多方面から多彩な講師の先生方のお話をお聞きする場を設けていますので、お時間の許す限り一人でも多くの会員の皆様にご参加いただくことを心からお待ち申し上げます。長らくお休みされている方、いつも参加されている方、多くの会員みなさんにぜひ今年も「現代教育」でお会いし、楽しいつながりの場となることを願っています。

## 第一回講演会 平成二十三年五月十四日(土)

「変化する子どもを取り巻く状況とその対応」  
～パトナの窓から見えてくるもの～京都教育大学教職支援センター教授  
京都府教育相談総合センター参与

桶谷 守氏

桶谷守先生は京都市立中学校現場で教壇に立たれた後、京都市教育委員会生徒指導課指導主事、生徒指導課長、京都市教育相談総合センター(愛称パトナ)所長を歴任され、平成二十三年春に退職された。今は京都教育大学教職支援センター教授として後進の指導に当たられるとともに教育相談総合センター参与として子どもたちの教育相談の指導にも携わっておられる。パワーポイントの画面をスクリーンに映しながらの熱心なご講演を、先生の意を尽くしている部分もあるかと思いますがお許しいただき、一部を紹介します。

学校は今どんな課題をかかえているのか

中学校の現場は三つの学校で十八年間、平成五年から教育委員会に異動して十八年間、計三十六年間教職に関わり現在は教職を目指す学生の支援、指導をしているが、そういう経験の中で考えてき

たことを中心に話していきたい。上記の課題として考えられるのは

①発達障害など特別な支援を必要とする子どもへの教育の在り方  
②学力格差が大きい

文科省の全国学力調査では、京都市の平成二十二年度の小学校の国語と算数は全国で第六位だったが、中学校は残念ながら府市ともに低い、私学に行くからといっていたが、それを差し引いても低い。全国的には東高西低の傾向があり、出来る子、出来ない子という学力の二極化がある。



③規範意識が育っていない  
④朝食抜きなど生活のリズムが乱れている。  
⑤理不尽な要求をしてくる親の存在

⑥子ども同士のトラブルへの対処などがあげられる。

あなたはご存知ですか

いろいろな数字や事例をあげて説明していきたいが、たとえばバライティングと呼ばれる、親に寄生している人の数が全国で千二百万人いるとされる。自殺者(半数以上が四十歳代の男性)は十三年連続三万人を超えている。ニート・フリーター・ひきこもりなどの若者に対する支援の取組が行われているが、四十歳までがその対象になっている。

生活環境の移り変わり

掃除や洗濯の仕方ひとつとっても親の生まれた時代と子どものも生まれた時代とはまったく違う。便利さと引き換えに環境に対する対応力を失ってきているのではない。

児童生徒の問題行動

小学校の問題行動の第一位にあるのは悪質ないたずら。誰がやったかわからない、知っていないと言わない。

第二位は万引き。中学生がある

スーパーで万引きしているように意図的にみせかけて、摘発に動いた警備員に対して土下座させるという出来事もありました。統計的には京都府が人口比では全国第一位の非行(刑法犯罪少年)の数であり、平成二十二年を非行対策元年としていろいろな取り組みをはじめている。

先日桂川の河川敷に八十人ほどの中学生が三十分で集結した。ケータイ電話はそういうことも可能にする。学校内外での暴力行為の発件数は全国第四位である。いじめの問題も、今はいじめの中心的担い手はつきりしなくなっている。集団の生み出す半無意識的な集団心理が構造的に作用している。

「学校の決まりは守っていますか？」という質問を紙上で答えていく全国の調査で小学校は四十七位、中学校は四十六位。小学校は学力は高いけれど規範意識は低いと言わざるを得ない。

特別支援教育

通常の普通学級の中にある支援の必要な子ども(LD・ADHD・高機能自閉症など)の在籍率が六・三%といわれている。こういう子どもたちへの対応がきちんとできていないと学級崩壊につながるし、生徒指導とは底の部分でつながっていると認識している。

児童虐待の問題

以前に比べ毎年大きく増加している。ネグレクト、身体的、心理的の順に件数が多い。性的虐待は数件だが極めて悲惨である。

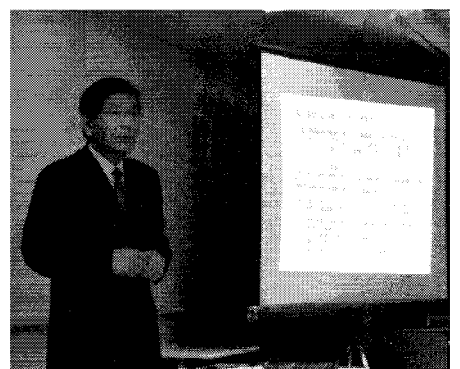
理不尽な要求をする保護者

卒業式後にアルバムに自分の子どものスナップ写真が一枚しかない、やり直せと要求した事例がある。そういった抗議、クレームを多発させる社会的土壌に、消費者は神様で顧客満足が第一であるという文化、そして学校教育もそうでないといけないという考えがある。

子どもの課題と背景、そして私たちはどう考えていくべきか？

最後に、そういった子どもたちについて背景と対応をまとめていくと

①対人関係の未熟さ→コミュニケーション



- ケーション力をつける
- ② 自尊心が育っていない↓自己達成感、自己充実感の育成
  - ③ 大人社会の反映↓価値観の多様化、地域社会の連帯感の希薄化
  - ④ 行動をコントロールする力が弱い↓規範意識の向上
  - ⑤ 体験の不足、主体性の欠如↓集団遊びの充実
- となるのではないか。
- 講演の最後に、親が子どもに対するとときに大切にしたい三つのこととして
- ① 誰であろうとダメなことはダメという「ぶれない指導」
  - ② 決まりを守らせる「法令順守」
  - ③ 面倒をみる「世話をする」
- をあげられ「集団の中で学びあう集団づくり」の大切さにもふれられ、熱のこもった講演を終えられた。

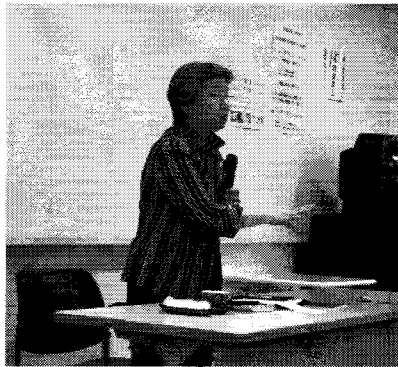
## 第二回講演会 平成二十三年七月二日(土)

### 「裁判における通訳問題」

広島女学院大学学長  
パブリックサービス通訳翻訳学会会長

長 尾 ひろみ氏

長尾ひろみ氏は、広島女学院大学を卒業後、神戸女学院大学修士課程、大阪外国語大学博士課程で学ばれ、博士号(言語文化学)を取得され、現在は広島女学院大学学長に就任されている。専門は通訳論(特に司法通訳)で長く大阪地裁での法廷通訳を務めておられる。外国人の関わる犯罪の裁判における通訳としての仕事を続けてこられて思われたこと、考えられたことの一端をお聞きすることができました。私たちの多くが日常知ることの少ない興味深いお話の連続でした。



はじめに

裁判所の通訳を二十八年やり、外国人の犯罪にかかわってきた。外国にはその国による独特の言語

文化があり、言葉の表面だけを日本語に訳すと、意味がずれたり、取り違えることがあります。かつて広島で女児殺害事件があったときペルー人の容疑者が警察の取り調べの中で自白をした時に「悪魔が私にそうさせた」と言っていることを報道で知り、あぶないなと思った。「悪魔が私にそうさせた」と言ったのは誰が言ったのか? 容疑者の通訳が言ったのではないか? 本当に容疑者が言ったことは何か? 東京や大阪では警察の通訳が捜査に入るが、広島では民間人が通訳する。南米から来たカトリックの人は、何かいいことがあると神様ありがとうと言い、自分にとつて悪いことがあると悪魔のせいにするのです。私は、裁判に関わっていないので、よくわからないが、裁判官がバスに乗っていて隣に座る女の子に手を出したことがあります。それを「ちよつと魔がさして……」と言う時、日本語の解釈としては、その場所に自分はいるが自分で自分のコントロールがはずれたという状態をさすのだと思います。

#### 翻訳の事例

大分以前にマレーシア人の通訳をしました。中国語の方がいいのではと思いましたが、英語の方がいいということでした。建設会社で働いていて、日本に来て社宅に

入って旦那は現場、一人いる子どもが生きがいでストレスがたまり万引きをする。デパートの地階のパン屋で、パンを万引きした。前の二回は執行猶予がついたが、三回目をやった。「何故とつたの?」ときくと、「インタレストイング」という言葉が答えにあった。単に訳すと「面白かったから」となる。そこでもう一度同じ質問をすると「マレーシアのパンと日本のパンは違う、それが興味深かった」という意味で「インタレストイング」という言葉をつかったことがわかった。誤って訳さなくてよかったと思いました。

#### フィリピン人の事例

フィリピン人の高校の英語の先生が、姉が日本にいたので夏休み頃に頼って来た。傷害罪で起訴された事例だがどうしてそうなったかと言うと、姉が少し働いたらということで、建築現場で働いた。飯場で泊まり込みで働いても誰も彼に話しかけず仲間に入れてくれない、電話がかかってきたら姉がかけてきたのではと妄想する。職場で何回も「あほんだら」と言われる。辞書で調べると「悪魔のこと」とあった。彼は周りから自分には軽蔑されていたと大きなショックを受ける。あるとき、電話がかかってきたとき、姉からと思って飯場の事務所に駆け込むと、親方

#### もう一つの事例

和歌山での外国人登録証の不携帯、オーバーステイが罪名なのだが、フィリピンから十八歳でダンサー募集で日本に来る。暴力団にパスポートをとられてホステスになり、体を売れと強要され逃げて和歌山にきてスナックで働く。そこで日本人の夫と出会い、俺の嫁にならんかというのでなつた。夫の家には寝たきりの夫の父がいて八年間世話をした。弁護士事務所での打ち合わせをすっぽかされて裁判当日に弁護士との接見打ち合わせを行ったがまったく英語の会話ができない。起訴状では二十七歳だが、髪には白髪がまじ



**メルボルン事件**

二十年ほど前に日本から七人の団体がコアラを見に行く安いツアーに参加した。ツアーは直接メルボルンにゆかずクアラルンプールに一日行つてというものだったが、メルボルンに着いた途端に七人は逮捕され二十年の刑を受けた。どういふことかという、クアラルンプールからのツアーガイドによると、皆さんの荷物を乗せたバンが盗られた。スーツケースが戻ってきたが破られていたので新しいケースに荷物を詰め替えた

作業かということです。

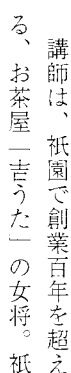
法廷通訳、司法通訳の認定試験制度をずっと要求しているが、まだ採用されません。報酬も会議の通訳に比べ少ない。また今までの裁判に比べ、日本でも始まってい

る裁判員制度の裁判はシナリオがなく、裁判での通訳がより高い力量を要求されている。それには訓練された資格のある人がどうして必要です。通訳はフィルターであり、もとはどういう意味でその言葉を言ったのか？ についての適切な理解を通しての翻訳が求め

られています。

……私たちのなかなか知り得ない仕事、法廷通訳について様々な事例をあげてのお話が続き、終了後は質問が相次ぎ、もっと話を聞きたいという思いの中で散会となりました。

京都祇園「吉うた」四代目女将 高安美三子氏



園に生まれ、祇園で育ち、舞妓から芸妓、芸妓から女将としてお茶屋の四代目を継がれている。また

平成十九年には、「祇園に学ばしなやか処世術『おおきに』」を出版されている。趣味の狂言歴は三十五年に及び、その他常磐津から俳句と多芸にチャレンジ、句集も出版されている。祇園の移り変わりを中から見てこられた立場でのお話と、お話の後には舞妓さんの舞が披露され、大変多くの出席者が興味深い話に引き込まれ、舞妓さんの美しさに感嘆したひと時を過ごした。女将さんの話の中のいくつかを、意を尽くしていない部分はご容赦いただいて簡単に紹介します。

祇園町に生まれて育ち「吉うた」

の女将をしています。が、なぜ「吉うた」というのかといえば、一代目は「うた」という名前で「吉松」という新橋のお茶屋さんに奉公して、のれん分けされ「吉うた」を名乗ったと聞いています。二代目（私の祖母）はお龍さんと呼ばれていましたが二十四歳で後を継ぎました。祇園小唄を作られた長田幹彦さんの自筆の原稿（祇園小唄を書いた原稿用紙）が吉うたにあります。が、祖母が亡くなった時に遺品を整理してでてきたものです。私自身は中学3年の在学中から置屋と呼ばれる舞妓を育てる家に預けられてというか奉公にだされていろいろな作法や芸事の舞妓修行を徹底的に仕込まれました。当時は祇園甲部に舞妓さんは八十人ぐらい、お茶屋の数は二五〇、二六〇軒あり、声がかかるように自分を売り込むのが大変でした。私は富春という名前でしたからお茶屋さんを一軒一軒「富春とす。あとでどうぞ知らしとくれやす」

と挨拶まわりをします。そうすると、あとで声を掛けてくれる可能性があるので。

### 舞妓修行

祇園甲部に限らず、京都には五花街がありますが、それぞれが大きな家族という感覚があります。置屋（舞妓さんたちを育てるところ）とお茶屋（舞妓さんを手配したり、引率する）とがあり、その二つを兼業するところもあります。舞妓を育てるのは大変です。舞妓を一人育てるにはその衣装、アクセサリ、小物類などを一からすべて新しく用意するにはざっと家一軒分の費用がかかるというわれています。これだけの投資をして途中で辞められては育てがいが



ないし、大変な赤字です。軽い気持ちやあこがれだけの志望動機では、舞妓や芸妓の仲間入りはとてできません。

都おどりは「よいやさ」で始まりますが、その時出てくるのは十四人です。昭和四十年ぐらいの頃は人が少なくて、舞妓では足りないのが芸妓やお姉さんがでることがありました。今は、地方から舞妓の希望者がくるのでそんなことはなくなりました。

昔、私が舞妓の頃は、芸事の修行が大変厳しく一年間は出させてもらえませんでした。その頃は四世の井上八千代さんが舞のお師匠さんでしたが、当時四組あった踊りのグループで最初の一組はきちんと教え、あとの組はさつきみたやろ、とやらせる厳しいものでした。お稽古の厳しさが芸を向上させてくれるのです。今の舞妓は中学を卒業してからこの世界に入るので十六歳から出演することになります。高校を一年行ってからこの世界に入る人は、わずか一年の違いですが、声のトーンが低くなり、舞妓が似合わない人が多いです。

### 舞妓から芸妓へ

舞妓から芸妓へという流れがあるのですが、舞妓の髪形にも決まりがあって好き勝手は許されません。祇園甲部の場合、舞妓が最初

に結う髪形は「割れしのぶ」そして口紅は、舞妓一年生の間は下くちびるだけにしか紅をつけません。二年目から上くちびるにも紅を塗ります。一人前の舞妓になると髪形も「割れしのぶ」から「おふく」・祇園祭のときは「勝山」・お正月や八朔の正装は「奴島田」、舞妓から芸妓になる直前は「先舁（さつこう）」という髪形をします。口紅やアイラインなどの化粧や髪形で舞妓や芸妓の年齢や芸歴が想像できます。こうして二十歳くらいになると、年齢的にももう大人ですし襟替え（舞妓時代の赤い半襟から白い襟に替えて、芸妓に変わる）という儀式を通して、舞妓から芸妓になっていきます。舞妓のときは頭を自分の髪で結いあげているのを芸妓になるとあつらえた髪をかぶります。がらりと雰囲気が変わり大人の色気が加わって、本当にきれいにべっぴんさんになり、女性としての魅力がでてくるのに驚かされます。こうして一人前の芸妓としての日々がはじまってゆくのです。

### 時代の移り変わり

近頃の話に、この都おどりが終わったところで、二人の舞妓さんが辞めていきました。ただきれいな着物着れるからというような軽い動機ではこの仕事は務まりません。地方から、マスメディアを

とおしてこの世界を知り、強い決意で入ってくる子たちも最近は増え、今は三十人ぐらいの舞妓さんがいます。その中でも今日このあを舞を披露する「沙月」という舞妓さんは今年一年目だが、すばらしいべっぴんさんで皆さんに楽しんでもらえると思います。

最近携帯電話が発達してきて、お茶屋ぬきで芸妓とお客さんが連絡をとるようなこともあり、楽だか示しがつかないこともおこってきていますが、祇園の伝統としてのお茶屋の存在、文化をこれから守っていききたいと考えています。

### 講演の後で

出席者からの質問として  
・旅行者が舞妓さんの格好をしているのを見かけるが……  
・地方の中学生がどうして舞妓さんになりたいと思うのか……  
・中国人や外国の人が舞妓になれるのか……

・花代のシステムは……  
など質問が相次ぎましたが、準備が整い前述の割れしのぶの髪形で下くちびるにだけ小さく紅を塗った舞妓さんの一年生「沙月」さんが大きな拍手の中登場し、舞がはじまりました。一同がその美しさに息をのむひとときが続きました。

## 平成 24 年度 現代教育研究協会総会・講演会

日時 平成 24 年 5 月 12 日(土)

場所 インターナショナルアカデミー

講演 10:30 ~

演題 京都市の学校教育

—子どもたちにどのような力を育むのか—

講師 京都市教育委員会 指導部長 柴原 弘志 氏

昼食会 (ほっこりタイム)

総会 13:00 ~

案件  
・平成 23 年度 事業報告  
・平成 23 年度 会計決算報告  
・平成 24 年度 事業計画 (案)  
・平成 24 年度 会計予算 (案)  
・一般社団法人への移行について

# 第四回講演会 平成二十四年一月二十一日(土)

## 「親鸞聖人と千日回峰行」

龍谷大学教授、文学博士、本願寺派勤学 浅田 正 博氏



年明けの講演会は、会員の皆さんへのアンケートに「千日回峰行について知りたい」とあったのが発端で、龍谷大学教授で文学博士、本願寺派勤学の浅田正博先生に表記のテーマでお話しいただきました。先生は元叡山学院講師であられ日本の天台学を中心に研究されて、数多くの著作を著しておられます。先生の、時にユーモアを交え笑いの起こる中、丁寧なお話は内容も広く、そのすべてを紹介することはとてもできませんが、ご講演の初めの方、導入の部分をご紹介しますと思います。

### 私と回峰行とのかかわり

西本願寺の僧籍にある真宗のものが千日回峰行について語ること

は宗派を越えたことになりましたが、龍谷大学の学生時代に何を研究するかというときに、真宗の教えが当時の私には納得できずに、自分と同じ年の頃に親鸞聖人はどうされていたのか？を知りたいと思いました。親鸞聖人は九歳から二十九歳までの二十年間比叡山で修業したあと、突然山を下りられた。それには余程の理由があったのではないかという思いから比叡山の修業、学問に強い関心を持った。大学院のドクターが終わったときに、叡山学院の講師にならな

い、いかと声をかけてもらった。大変ありがたいお話で急いで赴任したが、学生からどうして真宗のお坊さんに天台学を学ばないといけないのかという反発があった。しかし、一年もしないうちに同じ宗内のものとして扱っていただくようになり、わだかまりがなくなった。学者同士の交流と同時に、行者さんとのつながりができたのがありがたかった。叡山学院に十年いたが十年の間に精力的に比叡山を歩き回った。観光で比叡山を訪れる人が普通行かない奥の方へ入っ

ていき、自分の教えた学生が修業している現場へも入っていった。それを行中見舞いという。「どうや？」といって現場に入っていくと、百日回峰行をやっている学生が「苦しい」と泣いている。裸足で草鞋ばき、足の裏を見せてもらおうと足の裏が真っ黒である。豆が出来る、歩けなくなるので豆をつぶさないようにしないといけない。そこで針に墨をひいた糸を通して血を抜き墨を入れ、墨の粘着力で固める。それを毎日繰り返して一日に七里半歩く、三十キロ山を登り下るわけで、どこが大変かと聞くとアスファルトの上が一番歩きにくいと言っていた。私は当時草履と草鞋の区別も知らなかったが、草鞋というのは指を挟むところが先端に付いている。ということとは足の指がすべて草鞋の外へ出るということになる。直接土を踏むわけでその土がアスファルトであり、今は軽トラックが山に入るの道道にはそのためのバラスが敷かれている、その上を歩くわけです。親鸞聖人の七百年あまり前の修業の形と今の修業と同じかどうか疑問に思うのですが、聖人はどこにも修業について書き残しておられない。学院を卒業して修業中の元学生に尋ねると、百年も数百年も修業の実態は変わらないのではないかと聞いていた。修業とは師匠の言うとおりにする

もので、その師匠もまた同じように師匠から言われたようやる、それが連鎖と続いていると考えられるのではないかと。親鸞聖人は比叡山で二十年修業されて山を下りられたのだが、その間どこに行つてどんな修業をされたのかについて、何も書いておられない。修業の内容、どうして山を下りたかが少しでもわかればと思つて天台学を学び始めたのだが、いまだにわからない状況なのです。しかし十年間叡山学院にいて、比叡山を歩かせていただいている現在のどのような修業をやっているか、そして又修業をやった心境はどうかについて、自分なりに知ることができた。經典の中には自分が体験した宗教体験は人に語るなと書いてあるのが師匠には語らねばならない。自分も師匠のはしくれなので行者のところへ行つて体験談をちょっと聞かせてくれな

### 親鸞聖人と千日回峰行について

(先生の撮影された写真や出版物から許可を得た写真の映像と先生作成の資料をみながら)

琵琶湖側から比叡山をみると三塔十六谷三千坊がこのように見えます。東側から見るのが比叡山の正面になり、このように細長く、北が横川エリアで北塔という三つのブロックに分かれている。坊舎



がかたまって立っているところを谷といい十六ある。坊舎の数についてはさすがに三千はなく、仏教用語でいうすべてという意味であろう。回峰行というのは一番南の谷、無道寺谷というところから出発する。西塔、横川を通って日吉大社へ下りてきて、また無道谷を登って一周する。これで大体七里半、だがそれは実際の距離ではなく八というのが満数で仏を表し、どれだけ修業しても仏に辿りつかないということで、七里半という表現をしている。実際に歩いてみると二十二、三キロではないかなと思う。この七里半をただ歩くだけでなく途中三百ヶ所ほど礼拝をしていく。目の前の堂舎への礼拝以外に遥拝といい、はるか彼方への礼拝もある。

(比叡山の天台宗の開祖である伝教大師の開山の由来、本尊の仏像づくり、回峰行のコースに沿った、実際の比叡山の堂舎、根本中堂、等のスライド写真をもとにした興味深い説明が続きます)

(根本中堂の断面の図を映しながら) ご本尊の位置と参拝者の位置の高さが同じになっています。これが天台様式といわれるものです。真宗ではご本尊は仰ぎ見るものだが天台宗は違う、理屈の上でいえば私たちが仏になる可能性がある、仏性がある可能性でいえば同じ高さである。しかし実際には

私たちには煩惱や地獄が心にある、煩惱や地獄によって仏様と隔たっている、その隔てている場所、谷を煩惱谷、地獄谷と呼んでいる。(礼拝の対象である仏像の説明が続く)ですから、修業というのは谷を下りる、下へおりてという修業をする。参拝殿と本尊厨子殿の高さは三メートルある。これが誰だって修業すれば仏になることが出来ますという天台の教えを意味している。ところがなかなかすべての人が仏にはなれない、どうしても怠けてしまいます。仏になるのは大変なことです。

(こうして、お話は佳境に入つてゆき、以下の項目にしたがって進んでゆきます。)

一、文献上より見た親鸞聖人の比叡山での行状

二、現在の叡山の修業形態

三、親鸞聖人はどのような修業をされたと推測できるか

四、現行の回峰行について、百日回峰行と千日回峰行

五、回峰行を親鸞聖人がされたと考えられる点

紙面の都合でお話の内容について、すべてをご紹介出来ませんが、具体的に実際の映像を見ながらの丁寧なお話にて、出席者は魅せられ、またたく間に時が経ってゆき、大きな拍手のうちに講演が終了しました。

## 現代教育研究協会の歩みをふりかえる(その二)

前号では昭和四十四年に、京都市立塔南高等学校初代校長、洛陽工高校長を歴任された森藤吉氏の呼びかけで、当時の京都の教育の現状を何とかしていきたいと考える幼・小・中・高の教員を中心に四十余名が集まって、営利を目的としない民間の教育研究団体「京都教育研究所」を立ち上げ教育調査研究の実施や教育講演会の活動を開始し、昭和四十八年には文部大臣の認可を得て、「社団法人 現代教育研究協会」として発足、誕生したこと。また、活動初期は「学校教育」を中心に教育目標・評価・特別活動・進路指導などについての研究、さらには園、校種間の連携についての研究、昭和五十七年以降は「企業内教育」「家庭教育」「学習塾と学校教育との関わり」などに研究対象が広がっていき、これらの取組は現在の「生涯学習」時代の到来に対する当時としての先進的な取組として位置づけられるという概要を報告した。

### 海外の教育制度の研究

昭和四十八年に研究所から文部科学省認可の公益社団法人となったことで、協会は社会的責任をより明確にして堅実な歩みを展開することになる。ヨーロッパ特にフランスの教育制度や教育課程についても調査研究を行い、フランス・ドイツ・イギリスなどの諸外国、及び我が国の教育の専門家を招いて講演会やシンポジウムなども数多く開催している。

### 紫式部 乾漆坐像

昭和六十三年には、協会の創立二十周年の記念事業として、ユネスコが千九百六十四年に世界の偉人としてリストアップした日本で最初の文化人とし顕彰した源氏物語の作者「紫式部」の等身大坐像(京都教育大学名誉教授・日展評議員 杉村尚先生作)を製作し京都府に寄贈、現在京都文化博物館の二階入り口に置かれている。

### 昭和六十年以降と生涯学習

昭和六十年以降は、研究対象を「生涯学習」に向け、年次計画に基づいて調査、研究、をすすめる、それぞれの研究テーマに応じた講演会、研修会を開催してきた。平成二年には「生涯学習フェスティバル」にも参加し、シンポジウムを開催している。



## 秋の日帰り一日研修

平成二十三年十一月十五日(火)

一休寺と新薬師寺、長岳寺、  
奈良・天平俱樂部を訪ねて

平成二十三年秋の一日研修は、秋色の深まる中、京田辺、奈良の古刹を訪ね有名な仏像や建物などの文化財を拝観し、紅葉を愛でる研修を企画しました。

午前八時四十五分、京都駅八条口バスプールに集合し九時に出発、京奈和自動車道を通って、京田辺市の一休寺に向かいます。高速道路をゆくバスは予定より早く一休寺駐車場に到着、さっそく見



学です。一休寺は鎌倉時代に臨済宗の高僧南浦紹明が開いた妙勝寺が前身で、その後戦火に罹災していたものを、室町時代中期の千四百五十六年一休禅師が再興したものです。黄や紅の紅葉を愛でながら参道を通り方丈までゆっくり歩きます。方丈で一休禅師の木像を拝礼し、狩野探幽の襖絵を鑑賞したあと、方丈周囲の庭園を眺めながら、ご住職から一休寺の由来、三人の有名な作庭者による江戸時代初期の禅院枯山水庭園づくりの方丈庭園の鑑賞ポイントを詳しく説明していただきました。その後、一休寺納豆を買ったり、宝物殿をはじめとする境内の拝観、散策を楽しんだ後、新薬師寺に向かいます。

新薬師寺は、七百四十七年光明皇后によって建立され、現本堂は今に続く国宝です。また内部には国宝の本尊薬師如来、日光、月光菩薩、十二神将が安置され、それらをじっくりと拝観したあと、集合写真を撮影し、昼食場所のレス

トラン天平俱樂部へ向います。

季節の旬の食材が満載の日本料理を美味しく頂いたあと、天平俱樂部はかつて俳人正岡子規が宿泊した旅館があったところ建つたというこ

とで隣接する、子規の庭といわれる庭園を散策し、最後の見学場所の天理市に向けて出発します。

バスで三十分も走れば、天理市の山の辺の道の長岳寺に到着です。長岳寺



は八百二十四年に弘法大師が創建した真言宗の寺院で、仏像や建物の見どころも多いのですが、ちょうど本堂で狩野山楽の筆になる大地獄絵が展示されているところであり、一時間に亘って、お話の大変お上手なご住職の地獄図の絵解きを聞かせていただきました。長岳寺の地獄図は掛け軸九幅から構成され、全体で一枚の絵となっており、その内容についてのユーモアたっぷりのお話にひきこまれ、

あつという間に一時間がたち、出発の時間となりました。

天理市から奈良市に入り、本日の最後の休憩、お買いものの場所として、奈良市高畑のなら和み館に立ち寄り、参加者それぞれが奈良土産を購入して、帰途につきます。

今年の日帰り研修は、近郊を訪ねたということ、行く先を絞り込んだことで、まだ明るいうちに京都駅八条口に帰着し、無事に終えることができました。

## 編集後記

例年に増して寒かった冬もようやく遠のき春を迎えたこの頃ですが、東日本大震災に関連し実施を見送った春の宿泊研修を除いては二十三年度も当初の計画通りに事業を実施することができました。一般社団法人への移行申請についても、鋭意取り組みを進めているところです。二十四年度も、会員の皆様のご理解、御協力を得て、実り多い活動を進めていけたらと願っています。

